JANSI

Japan Nuclear Safety Institute

一般社団法人 原子力安全推進協会

JANSIについて

原子力産業界は東京電力福島第一原子力発電所の反省を踏まえ、民間の第三者機関が原子力事業者を牽引して更なるエクセレンスを自主的に追求する仕組みとして、2012年に自主規制組織である原子力安全推進協会(JANSI)を設立しました。

この「自主規制」を実現するため、JANSIと産業界は次の内容について確認し、「共同体」としてさらなる原子力安全の向上に取り組んでいます。

CEOの関与※1

事業者CEOがガバナンス、オーバーサイトを含むJANSIの運営に積極的に関わる。

原子力安全に重点

原子力安全が最重要である。発電所運営における「エクセレンスの基準('standards of excellence')」の達成に重点を置く明確なミッションがある。

産業界からの支援

産業界はJANSIの活動に全面的に参画し、人材等のリソース面でJANSIを支援する。

責任

事業者は各自の発電所の安全について責任を有するとともに、産業界全体の安全についてJANSIへの責任を果たさなければならない。

独立性※2

JANSIは産業界には依存するものの、個々の事業者、事業者グループからの独立性を有している。

理事会

※1　全事業者のCEO*により構成されている理事会がJANSIの活動にコミットメントしています。
*CEO：Chief Executive Officer(最高経営責任者)

※2　事業者からの独立性と安全性向上活動についての牽引機能を確かなものにするために、JANSIは事業者と原子力施設の停止等を勧告できる権限や事業者情報へのフリーアクセスなどを盛り込んだ『**協働原則**』を確認しています。

JANSIのミッション及び活動サイクル

自主規制を実効あるものとするためには、事業者が自主的・継続的に安全性向上に取組み、その時点での世界最高水準の安全性（エクセレンス）が達成できるよう努力するとともに、さらに高みを目指して自らエクセレンスを生み出すよう努力していく必要があります。（これを「エクセレンスの追求」という）

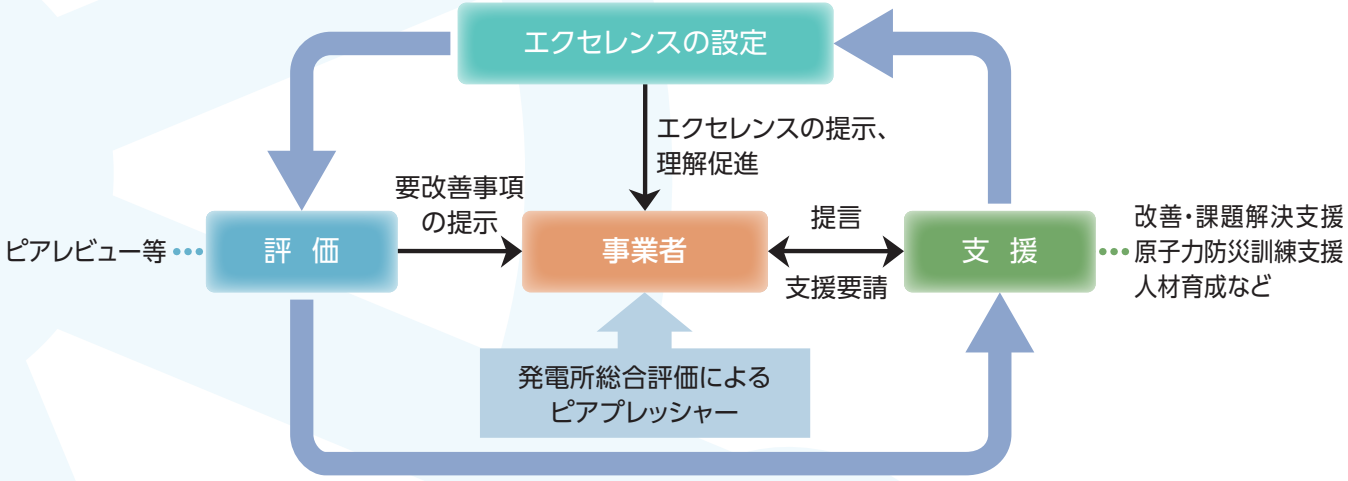
このため、JANSIは次のミッションを掲げて原子力事業者の自主的、継続的安全性向上活動を牽引します。

～ミッション～

日本の原子力産業界における世界最高水準の安全性の追求
（～たゆまぬエクセレンスの追求～）

JANSIは、ミッションを達成するために最新のエクセレンスを把握し、それをベースとした『**エクセレンスの設定**』と事業者に対する『**評価**』及び『**支援**』のサイクルを、効果的かつタイムリーに回します。

JANSIの活動サイクル



将来ビジョン

産業界及びJANSIの現状を踏まえ10年戦略では将来ビジョン（将来の目指すべき姿）を設定しました。JANSIは、次の「JANSIビジョン」を目標に自らの活動を高めるとともに、それらの活動を通じて、産業界を牽引・支援し、「産業界ビジョン」の実現を図ってまいります。

JANSIと産業界の将来ビジョン

JANSI

原子力産業界の自主規制組織として、事業者の自主的安全性向上の取組みを牽引している。

産業界

事業者の自主的安全性向上の取組みが定着し、継続的な改善が図られている。

10年戦略の策定

JANSIと産業界が10年後の目指すべき姿を設定・共有し、実現していくための戦略、活動計画である「10年戦略」を2019年3月に制定しました。

ここで産業界及びJANSIの将来ビジョンを明確化し、発電所のパフォーマンスを向上させるための重要成功要因を抽出するとともに、実現するための主要アクションを設定しました。

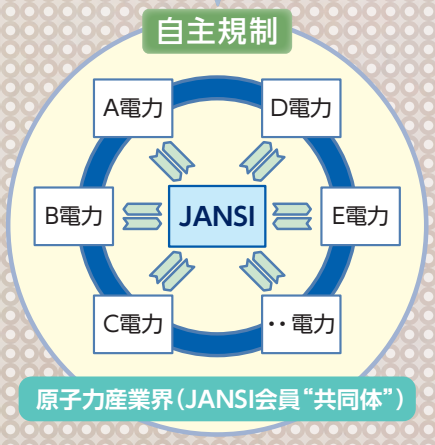
JANSIは、事業者とともにこの将来ビジョン実現に向けて取組んでまいります。

なお、この活動の有効性等の確認をし、将来に亘る環境変化を踏まえ定期的に検討を行い、10年戦略のアクション内容を修正します。

COLUMN

原子力産業界における自主規制の目指す姿 ～役割と責任～

●継続的な原子力安全の向上
●産業界一体となった取組み



JANSI会員（事業者）

- ●**自主規制の主体**として、共同体としての責務を果たし、一体的な安全性向上への取組みを継続
- ●原子力施設の安全に対する**個別および集団的責任**
- ●自主規制組織が**ミッションを遂行するための権威の付与**

JANSI（自主規制組織）

- ●自主規制を効果的、効率的に進める役割と責任
  - •自主規制活動を評価・監視するWatchdog
  - •活動を活性化するCatalyst
  - •道程を示し、活動を促進するFacilitator
  - •確固とした拠りどころとしてのAccountable Agent
- ●自主規制組織の権威の裏付となる技術力
- ●規制との適切な関係

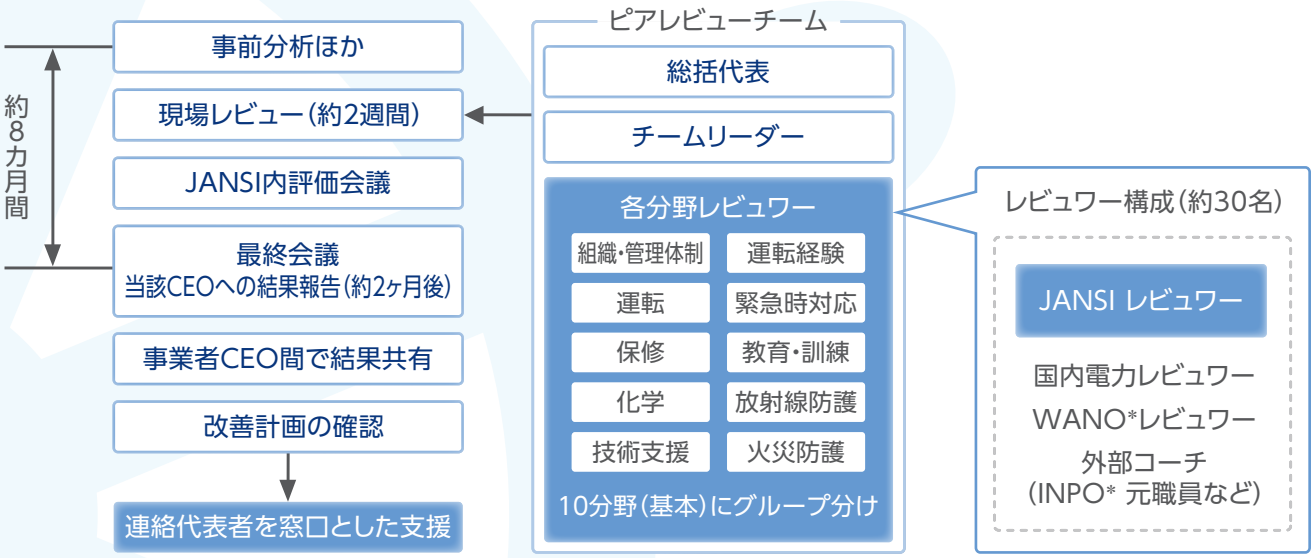
10年戦略の主要アクション

発電所ピアレビューの効果的・効率的実施

① ピアレビューの効果的・効率的実施

●ピアレビューの質の向上など継続的な改善を進めながら、計画的にピアレビューを実施する。また、ピアレビューをより効果的・効率的なものとするために、発電所の運転・運営等に関するデータ等を継続的にモニタリングする具体的な運用方法について準備を進める。

ピアレビューの概要



●**同等性取得**に向けた取組みを進めるとともに、WANOとの協業を進める等、効果的・効率的なピアレビューを目指していく。

解 説　同等性取得とは

JANSIピアレビューがWANOピアレビューと同等であることの認定を取得すること。

*WANO：World Association of Nuclear Operators（世界原子力発電事業者協会）
*INPO：Institute of Nuclear Power Operations（米国原子力発電運転協会）

発電所パフォーマンスの定常的な状況把握・発信の強化と支援活動の充実

② 発電所パフォーマンスの定常的状況把握の強化

●定常的な状況把握の手法を確立し、劣化傾向の早期把握と改善に向けたタイムリーな支援を行う。このために、**パフォーマンスモニタリング**の導入についてフィージビリティスタディを進めその結果を適切に反映しながら、2024年度以降に本格運用を目指す。

解 説　パフォーマンスモニタリングとは

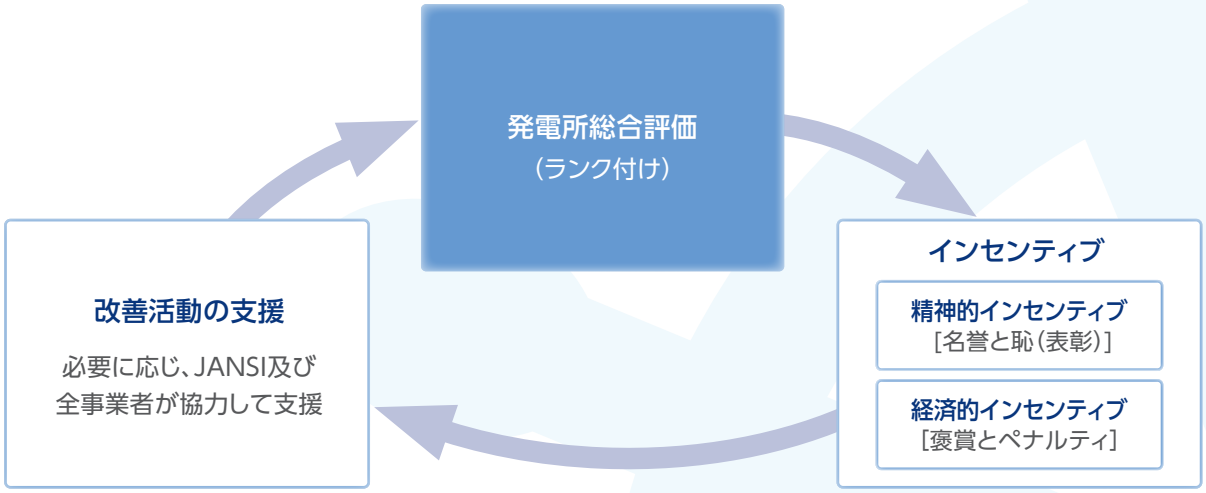
PI*、OE*など発電所の運転・運営等に関するデータ等をモニタリングし、その時点でのパフォーマンスの劣化、維持、向上の傾向を把握する活動。

*PI：Performance Indicator（事業者が自主的に定めるパフォーマンス指標）
*OE：Operating Experience（運転経験）

③発電所総合評価の継続的改善と実施

●発電所総合評価において継続的に改善を行いながら、経済的インセンティブをより適切に反映するために、反映先をJANSI会費から財産保険料率に変更する。

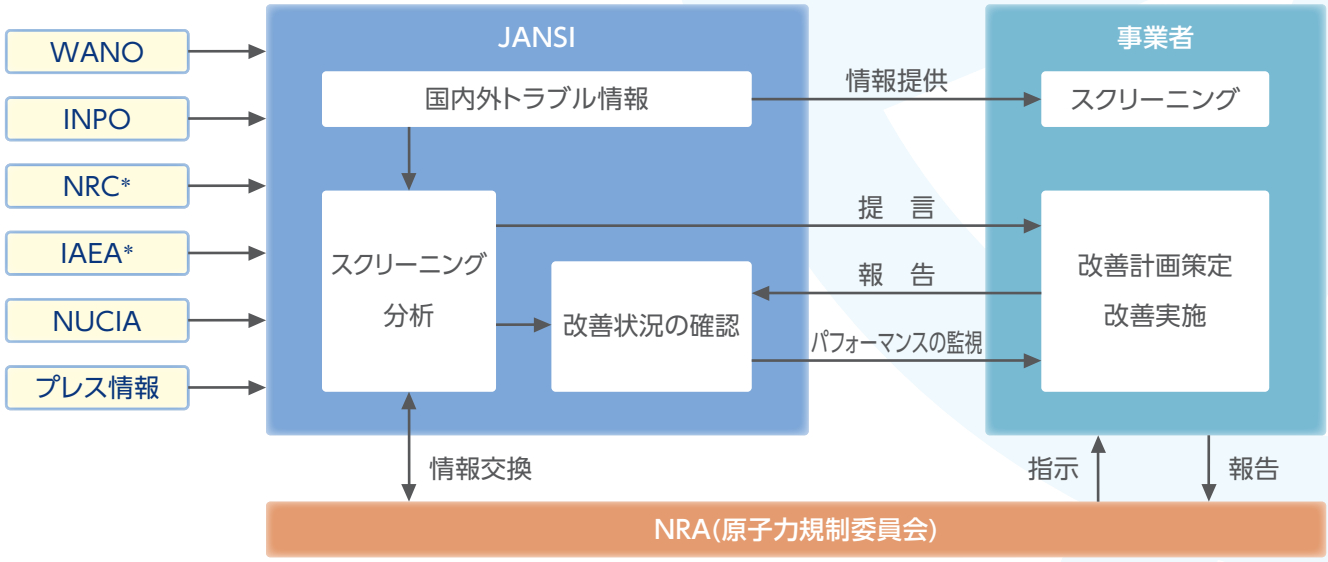
発電所総合評価イメージ図



④OE業務の高度化と情報発信の強化

●世界の運転経験やエクセレンスを常に把握し、洞察力に満ちた分析が実現できるように手法を高度化し、技術力を向上させる。

OE情報活用イメージ図



*NRC：Nuclear Regulatory Commission(米国原子力規制委員会)
*IAEA：International Atomic Energy Agency(国際原子力機関)

解 説　NUCIA（ニューシア）とは

NUCIAは、原子力施設情報公開ライブラリーを意味する英語の名称NUClear Information Archivesの頭文字をとった略称で、国内原子力発電所や原子燃料サイクル施設の運転に関する情報を広く共有化するためのサイト。

http://www.nucia.jp/index.html

5 共通する重要課題の解決等に向けた事業者支援の強化

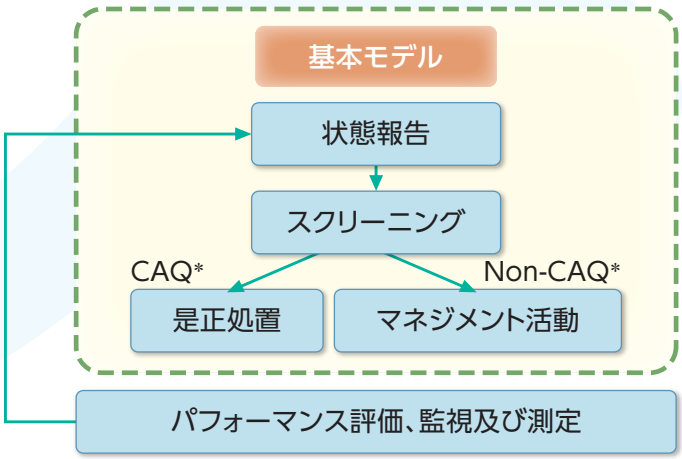
●共通する重要課題や個別の弱点を見出し、事業者トップを巻き込み、産業界全体で改善に向けた取組みを進めるように牽引力を高め、支援を強化する。

6 自主的基盤活動に対する支援の実施

●事業者において早急に定着が必要なCAP*、CM*、共通自主PI、RM*のプログラムについてガイドラインの整備、改訂、普及など原子力規制検査導入前後での事業者支援を充実させる。

*CAP：Corrective Action Program（是正処置プログラム）
*CM：Configuration Management（構成管理）
*RM：Risk Management（リスクマネジメント）

CAPシステムガイドラインにおけるプロセスの概念



*CAQ：Condition Adverse to Quality（安全に影響を及ぼす問題）
*Non-CAQ：Non Condition Adverse to Quality（安全に影響を及ぼさない問題）

7 再稼働支援の実施

●WANOと連携しつつ、先行プラントとの意見交換、事業者エキスパートの参加によるウォークダウン、準備状況レビュー、駐在などの支援を実施する。

8 再処理施設等の支援の実施

●原子燃料サイクル施設全般に対して、SR*などを窓口とした支援業務を実施する。再処理施設に対しては、しゅん工・操業前支援に加えて、しゅん工・操業後はWANOが実施するピアレビューに協力する。ウラン濃縮施設、MOX*燃料加工施設に対しては、燃料加工施設レビュー相当のレビューを実施する。
なお、廃止措置プラントに対しては、SRなどを通じた支援を継続するものとするが、ピアレビューは実施しない。

*SR：Senior Representative（連絡代表者）
*MOX：Mixed Oxide（ウラン・プルトニウム混合酸化物）

日本原燃原子燃料サイクル施設

本店を含めた評価・支援活動の充実

9 本店を含めたオーバーサイト機能の強化

●発電所オーバーサイトの本店機能強化のために、組織有効性の評価及び安全文化診断などの活動を行うとともに、WANOに協力し、WANO本店ピアレビューにレビュワー派遣などを行う。また、事業者が実施する原子力施設のリスクマネジメントの改善に向けた支援を継続する。

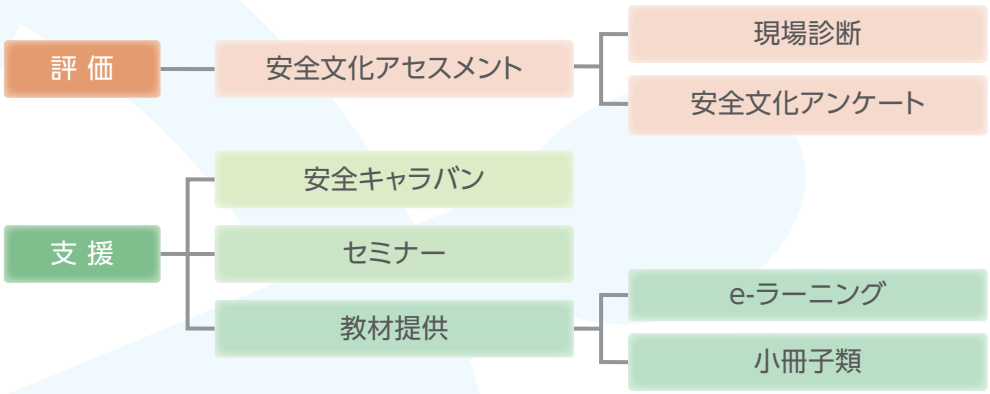
⑩ 安全文化診断手法の高度化と実施

●本店及び発電所に安全文化を浸透させるために、**システミックアプローチ**の取入れなど安全文化診断手法の高度化を行いつつ、活動を継続する。

解 説　システミックアプローチとは

人的、組織的及び技術的要因を分析する安全への一体論的取組みのこと。

安全文化醸成活動の体系

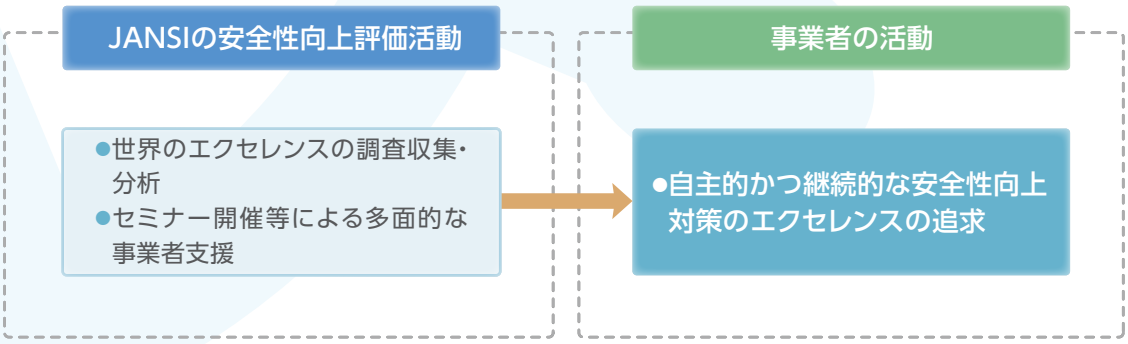


⑪ 安全性向上業務の総括と支援

●JANSI設立以降行ってきた現行の安全性向上評価活動の取組み※を2022年度に総括する。
それ以降は、引き続き、世界のエクセレンス（新知見等）を調査・分析し、事業者や関係機関と専門会議体やセミナー等を通じて共有し、事業者の自主的な安全性向上活動を支援する。

※IAEAのSafety Report Series No.46（原子力発電所の深層防護の評価）を活用し、事業者とは違った視点から、世界のエクセレンスに照らしてJANSI独自に発電所の深層防護を網羅的に評価し、事業者に必要な対策を提言する取組み

自主的安全性向上への取組み

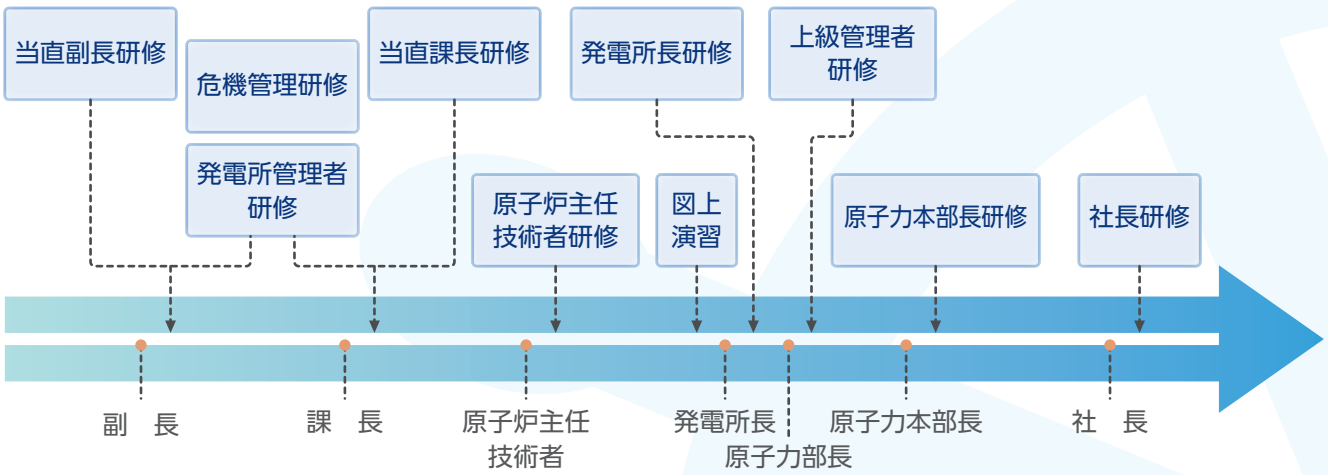


事業者の技術力の維持・向上

⑫リーダーシップ研修の実施

●事業者のノンテクニカルスキル、意識の醸成のための研修を行う。

リーダーシップ研修の概要



⑬SAT*手法の普及、定着

●原子力発電所要員の教育訓練プログラムのエクセレンスとしてSATが定着できるように事業者活動を支援する。

*SAT：Systematic Approach to Training（体系的教育・訓練手法）

⑭福島第一事故の教訓反映の徹底

●教訓反映の状況の確認・徹底を促すとともに、事故教訓の振り返り講演・意見交換、教材の開発・提供と研修での活用により、事業者の風化防止の取組みを支援する。

※出典：東京電力HD

⑮事業者トップとの直接対話など自主規制の主体としての意識の引き出し

●新任CEO/CNO*との直接対話、理事会等において、JANSIトップと事業者トップが直接対話することにより、自主規制の主体としての認識、自主規制組織の役割などへの理解を深める。

*CNO：Chief Nuclear Officer（原子力部門の責任者）

自主規制組織としての機能・意識・技術力など基盤強化

⑯ 緊急時における重要度文書発信等による事業者支援の展開

●緊急時においてWANOと協力し、対外情報発信などの支援を行うとともに、重要度文書、注意喚起文書をタイムリーに発信する。

⑰ 中長期人材確保・育成プログラムの展開

●10年戦略に沿った要員計画を策定するとともに、各年度の計画に基づき、要員確保を行う。職員の力量を維持・向上させるとともに、適正配置を行う。

⑱ トップによる自主規制組織としての意識浸透

●トップと職員の対話等を通じて、自主規制組織としての組織文化を組織全体に浸透させる。

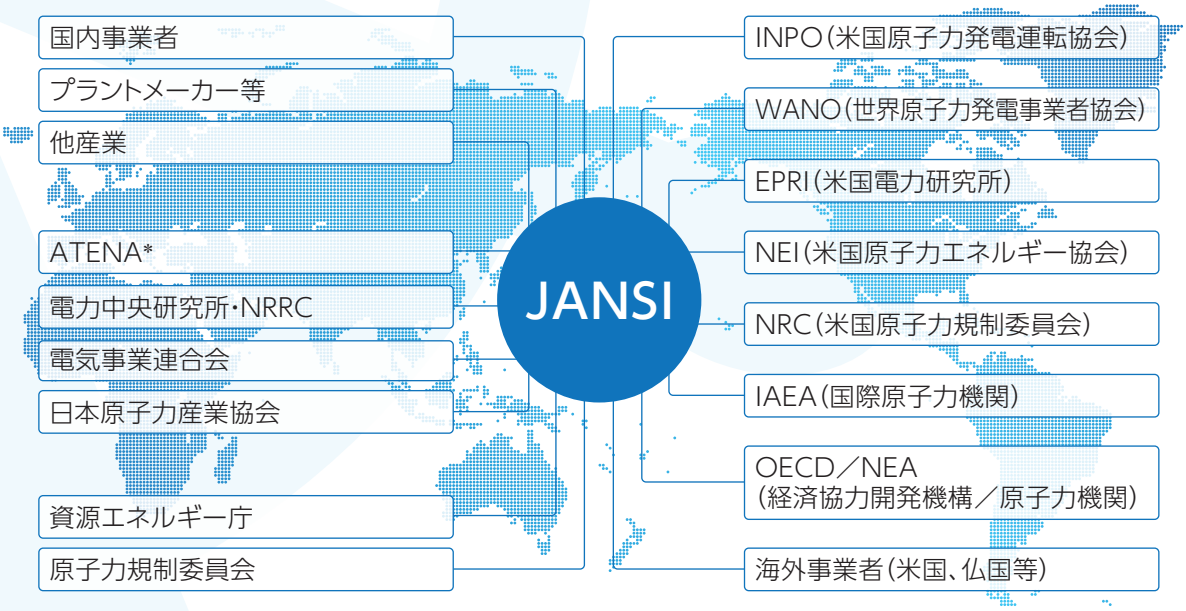
⑲ ステークホルダーとの原子力安全の相乗効果発揮のための連携強化

●NRA等ステークホルダーとコミュニケーションを継続し、原子力安全の相乗効果の発揮とJANSI活動の社会への理解促進に向けて取り組む。

⑳ WANO、INPO他の国際機関とピアの関係の構築

●世界のエクセレンス追求に向けての取組みを推進するとともに、次のステップでは日本の産業界が有する良好事例を世界のエクセレンスとして高め、情報発信を行う。

関係する組織



*ATENA：Atomic Energy Association（原子力エネルギー協議会）

- 名　　称：一般社団法人 原子力安全推進協会
- 所 在 地：〒108-0014 東京都港区芝5丁目36番地7号
  三田ベルジュビル13階～15階
- 設　　立：2012年11月15日
- 役職員数：約180名
- 会　　長：ウィリアム・ウェブスター Jr
- 理 事 長：山﨑　広美

『船の舵』のモニュメント
（JANSI 15階受付）

Nuclear Safety

船のグリップは事業者、その輪の中央にJANSI、そしてこれらがしっかりと組み合わされた姿は、「互いに緊密に対話し、信頼し尊敬しあう自主規制共同体」を象徴しています。

アクセスマップ

一般社団法人 原子力安全推進協会
〒108-0014 東京都港区芝5丁目36番地7号 三田ベルジュビル13階～15階
TEL 03-5418-9312　FAX 03-5440-3606　URL http://www.genanshin.jp/

2022/6